

財務諸表分析

石 光 裕

1. 財務諸表分析とその関連科目の変遷

財務状況をまとめた書類である財務諸表をもとに、収益性や安全性といった企業の様子を読み取る手法が財務諸表分析であり、会計学のなかでも応用的な分野といえる。なぜなら、前提として財務諸表がどのように作成されるかを理解しておく必要があるためである。具体的には、日々の取引を記録する技術である簿記、および会計基準によって要求される会計処理や財務諸表における表示方法などを扱う財務諸表論の理解が必須となる。

財務諸表は企業外部の利害関係者を対象に作成、公開されているものであり、企業外部者が企業分析を行うに際して、財務諸表分析は有用な方法の1つとなる。例えば証券投資を行う人は、証券売買のタイミングを図るために企業の経営分析を行う必要があるが、その一環として財務諸表分析が行われる。

経営学部では、1968年に経営学の経営管理分野の科目として「経営分析論」が開講されており、1976年には科目名はそのままで会計学分野に変更され、1998年まで存続していた。その後、しばらく財務諸表分析に近い科目は存在しなかったものの、2010年から、会計ファイナンス学科の会計領域の科目として「財務諸表分析」が開講され現在に至っている。

2. 財務諸表分析という科目の知的面白さ

大学で会計学の講義というと、簿記や財務諸表論が中心となるが、これらは企業行動をどのように描写するかというルールを学ぶことに他ならない。一方、財務諸表分析は、描写された結果である財務諸表をもとに、もとの企業行動を推定するという、逆の流れを考えることになる。財務諸表の各所に散らばった情報を拾い集め、そこから実際の企業行動を推測し、分析を行うプロセスには、会計学以外のファイナンスや経営学の知識も援用されることも多く、企業活動の息づかいを感じられる学際的かつ実践的な学問といえる。

3. 財務諸表分析の授業シナリオ

財務諸表分析の面白さを知ってもらうためには、まずは体験してもらうことが近道となる。財務

諸表の入手からはじまり、その読み方、分析（指標の計算とその解釈）という一連の手続きに沿って授業を進めていく。自ら手を動かし考えてもらうことで、その他の会計関連科目で学習した内容との関連性を実感し、学習内容も深まってゆく。例えば、財務諸表は会社法と金融証券取引法によって作成が義務付けられていることは、財務諸表論などにおいて学んでいるかもしれないが、実際に情報をどのように入手するか学生は知らないことが多い。また本物の財務諸表には、はじめ戸惑うことも多いが、電卓を使って計算するなどして慣れていくと、簿記での仕訳が最終的にどのような情報となるかのイメージもつかめ、会計全体への興味が出てくると考えられる。